

一生懸命、運動に取り組む 子どもの育成

大分県別府市立境川小学校

全校児童数	434名(男子218名 女子216名)		
全クラス数	19	教職員数	41名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	別府市立山の手小学校		
体育専科教員名		伊東 雅弘	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆一生懸命、運動に取り組む子どもの育成

体育専科教員が入って3年目。昨年度までは兼務校で2年、今年は拠点校で入った。体育の授業は、3、4年生は週2時間、5年生は週1時間、クラスに入って行く。コロナ禍で、できる種目も限られてくるが、今年も引き続き体育専科教員による系統的な体育学習、日常的な体力づくりを行い、子どもたちが自ら挑む体育を目指し「一生懸命、運動に取り組む子どもの育成」に取り組むことにした。

2 取組の計画

① 体育学習での取組

- ・体育専科教員を中心にTT体制で体育学習に取り組む。兼務校として2年間入っているため、いくつかの単元でT1を担当にしてもらい、指導力アップも図る。
- ・授業の流れを示し、子どもに「次に何をやる」という見通しをもたせる。また「今日、何を上手にするか」めあてを持たせ、時間いっぱい取り組めるようにする。

② 日常生活での取組

- ・毎日、朝と中休み、50m走に取り組めるようにする。

Do：実践内容

1 体育学習での実践

(1) 体育専科教員と担任とのTT体制、少人数指導

いくつかの単元で、T1を担当が行い、T2を体育専科教員が行う。特に、リレー、ティーボール、跳び箱、走り高跳びでは、3時間目くらいから、担任が全体の流れを指導し、体育専科教員が技術的なアドバイスをを行うようにした。また、兼務校では、走り幅跳びと鉄棒を組み合わせ、指導種目を分け、半数ずつ教えることにより、子どもが多く挑戦できるようにした。

(2) 学習の流れ「45分間、フルに体育」

授業時間を有効に活用し、常に体を動かせるよう工夫する。

- ①指導の流れを毎時間同じにして、子どもたちが1時間の見通しを持てるようにする。
- ②ビブス、コーン、ケンステップ等、色で指示を伝えることで、子どもの動きをスムーズにする。
- ③めあてを持たせ、振り返りをさせることで、今日は何をがんばるかをわかりやすくする。(学習カードを使う)

2 日常生活での実践(毎日取り組む50m走)

朝始業前と中休みの時間に、50m走に毎日取り組み、運動の基礎づくりにしている。学習カードに色を塗る等、個人で目標を立てやすくしている。学級のカードも使い、学級全体で取り組めるようにしている。(年間)

●工夫したこと(&苦労した点)

- ①TT指導で2時間、体育専科教員がT1で授業の流れを見せ、3時間目以降を担当にT1をしてもらい、指導力アップを図った。指導例として、指導の流れ、場の設定の工夫等をプリントにして紹介した。
- ②見合い・学び合い：走り高跳びの学習において、3回高跳びを行ったら支柱を持つ役を2人ずつ交代し、「とべたよ」「もう少し足をあげて」等のアドバイスをすると流れを決め、アドバイスし合えるようにした。また、助走(7歩)・ふみきり・空中姿勢・着地の4つのポイントにシボることや、うまく跳べるコツを「トン」「シュシューン」等の音で表すこと、ICTを利用することで、子ども同士がアドバイスしやすくなり、動きづくりのヒントになった。
- ③学習カード：記録を記入し運動の伸びがわかる、学び合い・アドバイスのヒントになる、自己評価や振り返りに使うことができる、等を実践できた。

Check：取組の成果

- ①校内のアンケート調査の結果では、全員の先生が、「活動の流れ、行い方が決まっているので、子どもの動きがスムーズ」「運動のポイントをピョン、トン等の音で伝える方法」「ルールがシンプルでわかりやすい」等、体育の授業の参考になったと答えた。特に、跳び箱・走り高跳び・タグラグビー等を担任がT1で行い、指導力アップを図った。
- ②学習カードを使って「めあて・振り返り」を書かせ、運動を主体的に行わせたり、体を動かしている時間を増やしたりしてきた。校内で行っているアンケート調査の結果では、91%の子どもが「運動を一生懸命した」と回答し、80%の子どもが「体育が好き」と回答した。
- ③50m走は個人・学級のカード2種が定着し、目標の2枚以上を達成した。

Action：今後の課題

- ①体育学習の指導方法の工夫として、授業の中に子ども同士の学び合いの場を仕組むことや、ICTを活用することで、運動に対する意欲・技術の向上がみられる。学び合いの仕組み方、ICTの活用法をさらに工夫したい。
- ②担任の指導力アップのため、担任をT1・体育専科教員をT2とし確実にTT体制で実践していく。
- ③50m走のさらなる充実に向け、学級の係活動や体育委員会の取り組みと関連させ、子どもの主体的な取組へと変えていく必要がある。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

休み時間に、外遊びをする子どもが増え、ボール遊び、遊具だけでなく、鉄棒・なわとび・一輪車・おにごっこ・リレー等の遊びも盛んに行われるようになった。

授業の流れを同じにして、1時間の見通しをもたせ、45分間、フルに体育

走る → 準備運動 → 作戦・めあての確認 → 練習 (アドバイス) → リレー (ゲーム1) → 作戦の立て直し・練習 (アドバイス) → リレー (ゲーム2) → ふりかえり



T1を担当・T2を体育専科教員

アドバイスゾーン: 跳び箱運動

タグラグビー タグとれ!

走り高跳び

横に動いて!

とべた!

ビデオとるよ!

とぶ⇒アドバイスゾーン⇒うさぎとび⇒ならぶ

跳び箱運動

手をしっかりついて!

着地、いいよ! 5点!

かえりほうさぎとびで!

兼務校の授業「走り高跳び・ティーボール」

運動のポイント

毎日の活動 50m走

アリーナで 走り高跳び

支柱係、交代!

鉄棒・走り幅跳び

走り幅跳びは担任で

逆上がりができたよ!

鉄棒は体育専科で!

鉄棒の近くに

足をあげるんや!

昼休みに練習しよう!

毎日、走るよ!

個人カード!

クラスカード!

クラスでもがんばってます!